

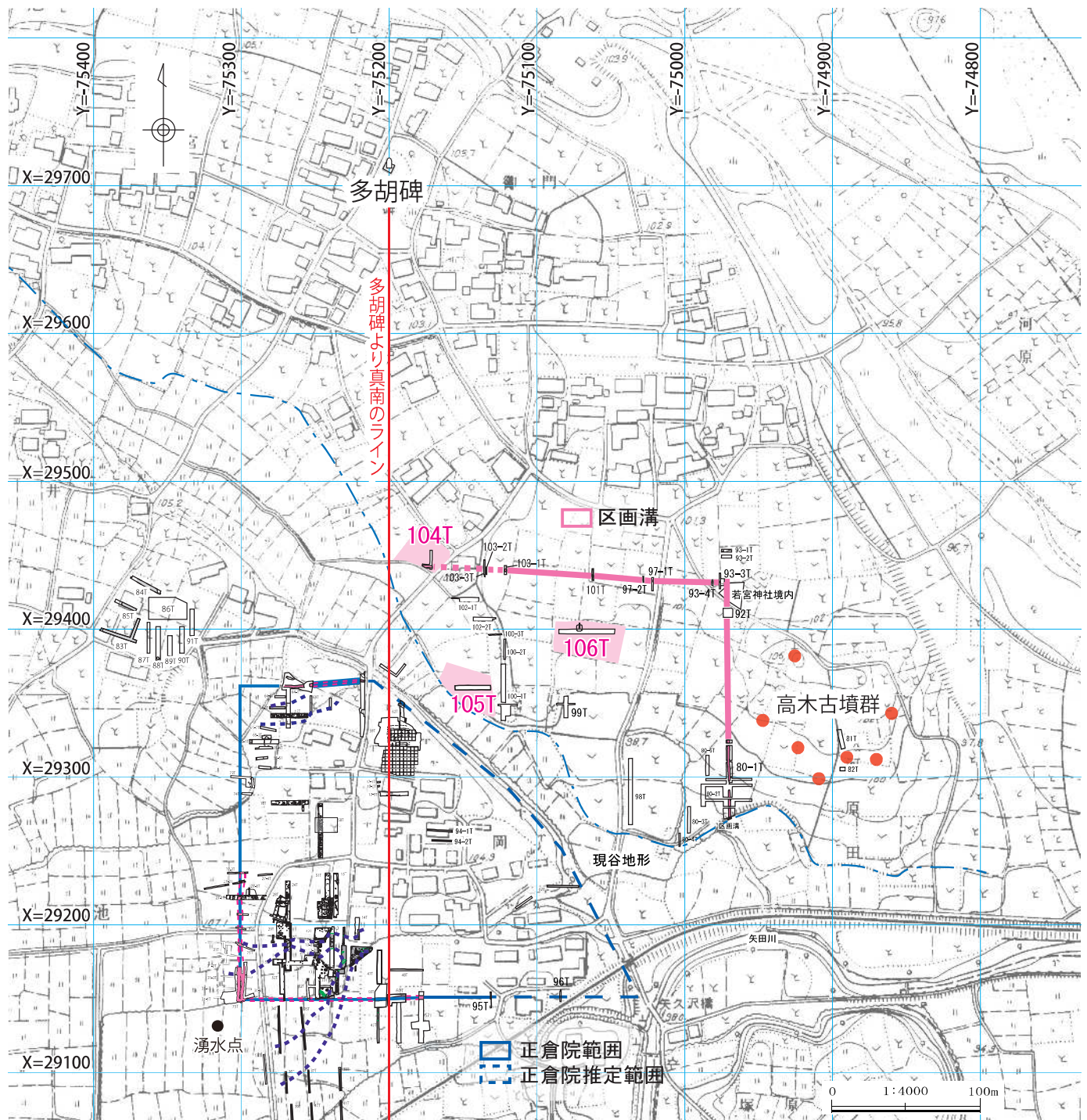
令和5年度
多胡碑周辺遺跡第13次調査現地説明会資料

令和5年度
多胡碑周辺遺跡第13次調査現地説明会資料

事業の概要

高崎市教育委員会では、特別史跡多胡碑周辺において、多胡碑に記された古代多胡郡の役所跡（多胡^{たご}郡^{ぐん}衙）に関連する遺跡を確認するための調査を平成 23 年度より継続して実施しています。

今年度の第 13 次調査は、多胡郡正倉跡から一段低い段丘面で発掘調査を行い、古代多胡郡の東西区画溝の調査、その内部の調査を実施しました。

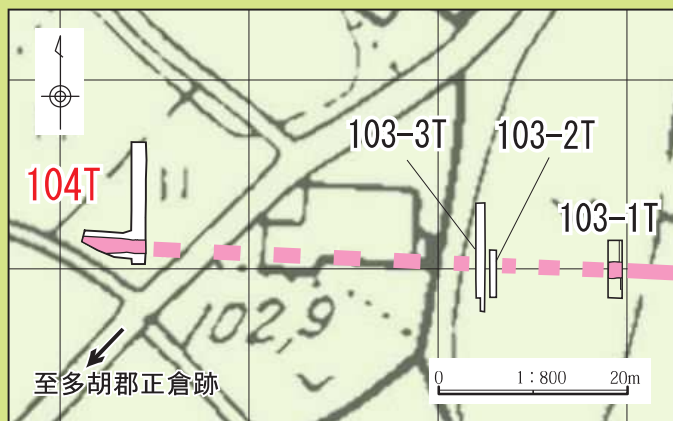


104～106 トレンチ位置図

104 トレンチ

第12次調査で確認した東西区画溝の延長線を
確認しました。溝の規模は、確認面での上幅は約
1.6m、底面幅は約 0.4m を測ります。これまで
調査した区画溝と埋没過程・溝形状は同じ特徴で
す。東西区画溝は東西正方位からやや北へ振れて
走っています。

この区画溝は、多胡郡衙の一体的な広がりを検
討する上で重要な遺構です。



104 トレンチ区画溝（東から）



104 トレンチ区画溝 断面（西から）

106 トレンチ



106 トレンチ竪穴状遺構（南から）



106 トレンチ竪穴状遺構 断面（南東から）

106 トレンチでは平安時代の竪穴状遺構
を1基確認しました。規模は検出面で東西幅
3.5m、南北幅 4.5mを測ります。遺構の深
さは検出面から約 0.5mを測ります。竪穴
状遺構はほぼ南北正方位を軸に掘り込まれ
ています。遺構を埋めている土の上位半分
は、1108 年に浅間山の噴火で噴出した浅
間B軽石です。浅間B軽石より下層の埋土
には焼土、炭化物、土器が含まれていまし
た。底面は地山の礫が露出していて貼床の痕
跡は確認できませんでした。出土遺物は全
て平安時代のものです。土師器^{はじきわん}・埴^{つき}・甕^{かめ}、古
代瓦が出土しています。

この遺構は多胡郡正倉跡より下位の段丘面
における多胡郡衙の施設や変遷を検討する上
で重要な遺構です。